

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年5月13日
【四半期会計期間】	第44期第1四半期（自平成26年1月1日至平成26年3月31日）
【会社名】	株式会社デジタルアドベンチャー
【英訳名】	Digital Adventure, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 李 命学
【本店の所在の場所】	東京都港区芝四丁目5番10号
【電話番号】	03(6809)6118
【事務連絡者氏名】	管理本部長 大山 智子
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝四丁目5番10号
【電話番号】	03(6809)6118
【事務連絡者氏名】	管理本部長 大山 智子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第43期 第1四半期 連結累計期間	第44期 第1四半期 連結累計期間	第43期
会計期間	自平成25年1月1日 至平成25年3月31日	自平成26年1月1日 至平成26年3月31日	自平成25年1月1日 至平成25年12月31日
売上高 (千円)	1,532,961	381,303	3,795,938
経常損失 () (千円)	21,281	80,656	538,554
四半期純利益又は四半期(当期) 純損失 () (千円)	99,655	83,285	433,746
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	49,319	83,285	484,082
純資産額 (千円)	2,378,277	1,724,477	1,798,195
総資産額 (千円)	3,209,361	2,020,784	2,315,164
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期(当期)純損失 金額 () (円)	1.83	1.53	7.99
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	70.9	82.5	75.2

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第43期第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式はありますが希薄化効果を有していないため記載しておりません。第43期および第44期第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失金額が計上されているため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、持分法適用関連会社の株式会社日本ブレイスの全株式を譲渡し、また株式会社アルジーの議決権所有割合が低下したことに伴い、2社を持分法適用関連会社から除外しております。これにより、当社グループは、当社および連結子会社2社となっております。

また、当四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当社グループは、2期連続で営業損失および当期純損失を計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況（重要事象等）が存在しております。

当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策は、「第2 事業の状況 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (6)事業等のリスクに記載した重要事象等についての分析・検討内容及び当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策」に記載しております。

なお、文中における将来に関する事項は当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

2【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、不安定な海外景気等一部に懸念があったものの、消費税増税前の駆け込み需要などから内需が堅調に推移するなど、景気は回復基調となっております。

このような経営環境の中、当社グループはグループ事業再編により、当社はアーティストマネジメントを中心としたエンターテインメントに事業集中して取り組んでまいりましたが、一層の事業集約を図るために、持分法適用関連会社の株式会社アルジーおよび株式会社日本プレイスをグループから除外しております。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、イベントをはじめとした大型案件がなかったこともあり、売上高は大きく減少しております。

一方、利益面については、事業別コスト管理の徹底により原価は抑え売上総利益率は改善したものの、販売費及び一般管理費を吸収できず営業損失となっております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3億81百万円（前年同期比75.1%減）、営業損失79百万円（前年同期は、営業利益4百万円）、経常損失80百万円（前年同期は、経常損失21百万円）、四半期純損失83百万円（前年同期は、四半期純利益99百万円）となっております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(物販事業)

所属アーティストの公式グッズやドラマ等の関連グッズは全般に好調であったものの、当第1四半期連結累計期間は大型イベント開催がなくイベントグッズの販売がなかったことにより、売上高は1億9百万円（前年同期比22.5%減）、セグメント利益は8百万円（前年同期比68.6%減）となっております。

(ライセンス&メディアコミュニケーション事業)

新人アーティスト発掘・育成事業の第1弾として、原宿発がけっぷちボーイズグループ「BEE SHUFFLE」が2月に「Welcome to the Shuffle!!」でデビューし、7月にセカンドシングル発売が決定するなど話題を提供しましたが、当第1四半期連結累計期間は大型イベント開催がなく、前年同期は所属アーティストの全国ツアーや大型ドラマ版權のDVD等での事業化があったこともあり、売上高は大きく減少しております。

利益面では、事業コスト削減により利益率改善に努めましたが、大型案件がなかったこともあり、この結果、売上高は2億65百万円（前年同期比78.5%減）、セグメント損失は85百万円（前年同期は、セグメント損失31百万円）となっております。

(その他事業)

前連結会計年度において、デジタルコンテンツ配信事業にグルーピングしておりました連結子会社3社の全株式を譲渡したことに伴い、当セグメントの重要性がなくなったため、当第1四半期連結累計期間からその他事業に含めて記載しております。以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

売上高は6百万円（前年同期比96.0%減）、セグメント損失は2百万円（前年同期は、セグメント利益9百万円）となっております。

(2) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因および経営戦略の現状と見通し

当第1四半期連結累計期間において、経営成績に重要な影響を与える新たな要因等は発生しておりませんが、当社はエンターテインメント事業により事業集約を図るため、持分法適用関連会社の株式会社日本ブレイスの全株式を譲渡し、また株式会社アルジーの議決権所有割合が低下したことに伴い、2社を持分法適用関連会社から除外しております。

当社グループが対処するべき課題の解決に努めるとともに、適切な事業投資の判断により財務体質強化を図ってまいります。

(6) 事業等のリスクに記載した重要事象等についての分析・検討内容及び当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策

当社グループは、2期連続で営業損失を計上しており、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、これは、主に大型ドラマコンテンツ著作権の償却負担増によるものです。前連結会計年度において取得した著作権を概ね事業化し、営業キャッシュ・フローが改善しており、またD A T Vの加入者増加による収益改善が見込まれることなどから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年5月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	54,392,638	54,392,638	東京証券取引所 JASDAQ (グロース)	単元株式数 1,000株
計	54,392,638	54,392,638		

(注) 提出日現在の発行数には、平成26年5月1日からこの四半期報告書提出日までの間に、新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年3月31日	-	54,392,638	-	3,999,492	-	-

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年12月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 79,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 54,202,000	54,202	
単元未満株式	普通株式 111,638		
発行済株式総数	54,392,638		
総株主の議決権		54,202	

(注) 「単元未満株式」欄には、自己株式476株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株デジタルアドベンチャー	東京都港区芝 四丁目5番10号	79,000	-	79,000	0.15
計		79,000	-	79,000	0.15

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年1月1日から平成26年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年1月1日から平成26年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,316,693	1,165,677
売掛金	192,187	167,501
コンテンツ	1,162	1,522
商品	3,712	9,096
関係会社短期貸付金	400,000	400,000
前渡金	175,719	135,268
その他	96,303	22,516
貸倒引当金	102	73
流動資産合計	2,185,675	1,901,510
固定資産		
有形固定資産	13,469	12,705
無形固定資産	41,290	33,947
投資その他の資産		
その他	165,806	162,498
貸倒引当金	91,077	89,877
投資その他の資産合計	74,729	72,621
固定資産合計	129,489	119,274
資産合計	2,315,164	2,020,784
負債の部		
流動負債		
買掛金	297,758	142,133
その他の引当金	6,286	6,287
その他	212,369	147,664
流動負債合計	516,415	296,085
固定負債	554	222
負債合計	516,969	296,307
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,999,492	3,999,492
利益剰余金	2,226,211	2,299,221
自己株式	32,412	32,416
株主資本合計	1,740,868	1,667,854
新株予約権	57,327	56,622
純資産合計	1,798,195	1,724,477
負債純資産合計	2,315,164	2,020,784

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
売上高	1,532,961	381,303
売上原価	1,363,351	318,530
売上総利益	169,609	62,772
販売費及び一般管理費	165,602	142,063
営業利益又は営業損失()	4,006	79,290
営業外収益		
受取利息	4,082	2,959
貸倒引当金戻入額	1,600	1,200
その他	151	254
営業外収益合計	5,834	4,413
営業外費用		
為替差損	25,397	5,160
持分法による投資損失	5,282	-
その他	442	619
営業外費用合計	31,122	5,779
経常損失()	21,281	80,656
特別利益		
投資有価証券償還益	103,941	-
関係会社株式売却益	-	7,382
新株予約権戻入益	22,623	2,299
特別利益合計	126,564	9,681
特別損失		
固定資産除却損	348	14
関係会社株式売却損	294	-
持分変動損失	-	10,275
特別損失合計	643	10,290
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	104,639	81,264
法人税、住民税及び事業税	4,984	2,020
法人税等合計	4,984	2,020
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	99,655	83,285
四半期純利益又は四半期純損失()	99,655	83,285

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	99,655	83,285
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	50,335	-
その他の包括利益合計	50,335	-
四半期包括利益	49,319	83,285
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	49,319	83,285

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

持分法適用の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、株式会社日本ブレイス及び株式会社アルジーの議決権所有割合が低下したため、持分法適用の範囲から除外しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)
減価償却費	7,505千円	4,328千円
のれんの償却額	5,611	4,019

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	物販	ライセンス&メディア コミュニケーション	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	141,802	1,234,549	1,376,352	156,608	1,532,961
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	141,802	1,234,549	1,376,352	156,608	1,532,961
セグメント利益又は損失 ()	25,922	31,730	5,807	9,814	4,006

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及び音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	5,807
「その他」の区分の利益	9,814
セグメント間取引消去	-
四半期連結損益計算書の営業利益	4,006

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	物販	ライセンス&メディア コミュニケーション	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	109,862	265,202	375,065	6,238	381,303
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	109,862	265,202	375,065	6,238	381,303
セグメント利益又は損失 ()	8,137	85,157	77,020	2,269	79,290

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	77,020
「その他」の区分の損失()	2,269
セグメント間取引消去	-
四半期連結損益計算書の営業損失()	79,290

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、「デジタルコンテンツ配信事業」として区分しておりました携帯電話及びパソコンプロバイダーを通じてのデジタルコンテンツ配信等については、量的な重要性が低下したため、当第1四半期連結会計期間より「その他」に含めて表示する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	1円83銭	1円53銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	99,655	83,285
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	99,655	83,285
普通株式の期中平均株式数(千株)	54,313	54,313
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式はありますが希薄化効果を有していないため記載しておりません。また、当第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額が計上されているため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年5月13日

株式会社デジタルアドベンチャー

取締役会 御中

三優監査法人

代表社員 公認会計士 古藤 智弘 印
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 増田 涼恵 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社デジタルアドベンチャーの平成26年1月1日から平成26年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年1月1日から平成26年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年1月1日から平成26年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社デジタルアドベンチャー及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。